

令和6年度(2024)

第45回

大道芸

がまの油売り口上講座

主催

筑波山がまの油売り口上研究会

<http://gamaken.wp.xdomain.jp/>

講座日程

期 日	内 容	会 場
9月14日(土) 午前10時～正午	口上文の内容と解説 (口上を習得する秘訣!とは) 資料3頁の練習	土浦市立「小町の館」内 霞湖の間(研修ホール)
9月28日(土) 午前10時～正午	陣中膏がまの油のルーツは (徳川家康と筑波山の関係は!) 前回の復習と4頁・5頁前半の練習	同 上
10月12日(土) 午前10時～正午	がまの油の仕掛け人は誰か (三人の兵助から真実に迫る!) 前回の復習と5頁後半からの練習	同 上
10月26日(土) 午前10時～正午	がまの油の原料と製法と 筑波山に関する伝説 全体的な復習と振り付け等	同 上

※講座の日時等を変更する場合は、速やかに講座生へ連絡をします。

連絡先

会場：〒300 - 4108 土浦市^{おの}小野491番地

土浦市立「^{こまち}小町の^{やかた}館」

講師：筑波山がまの油売り口上研究会・会 長

はやし 林 まさ いち 正 一

講師：筑波山がまの油売り口上研究会・事務局長

さ とう 佐 藤 さだ ひろ 貞 弘

大道芸「がまの油売り」口上

サァー サァー ^{たちあ} お立会い、^{ごよう} 御用とお急ぎでない方は ゆっ
くりと聞いておいで、見ておいで、^{とおめやまご} 遠目山越し^{かき} 笠のうち 聞か
ざる時は物の出方^{でかたぜんあくあいろ} 善悪黒白がとんと判らない。^{わか}

山寺の鐘^{かね}がゴーンゴーンと鳴るといえども、^{ほうし} 法師（^{どうじ} 童子）き
たつて 鐘に^{しゅもく} 撞木をあたえなければ、鐘が鳴るのか、撞木が鳴
るのか、とんとその音色^{ねいろ}が判らない。

サテ ^{じんちゆうこう} お立会い、手前ここに取りい出したる陣中膏は、これ
「がまの油」、がまと言ったって、そこにもいる、ここにもいる
と言う物^{もの}とは物が違う。

「ハハァーン、がまかい がまなら俺んとこの縁^{した}の下や流し
の下^{もと}にゾロゾロいるよ」と言うお方があるかも知れないが、あ
れはがまとは言わない、ただのヒキガエル・イボガエル。

^{なん} 何の薬石^{やくせきこうのう} 効能はないよお立会い。

サテ ^{しろく} お立会い、手前のはこれ「四六のがま」^{しろくごろく} 四六五六はど
こで見分ける。^{みわ} 前足の指が^{しほん} 四本で、後ろ足の指が^{ろっほん} 六本、これを
名付けて ^{めんそう} ヒキ面相は「四六のがま」

サアアテ お立会い、このがま 何処どこに住むかと言うと、ご当地より はる～か北、北は常陸ひたち くにの国に筑波こおり こじき まんようの郡、古事記、万葉の古いにしえより関東の名山めいざんとして詠うたわれております筑波山の麓ふもと、おんばつゆくさ やくそう くこと言う露草・薬草そだを喰らって育ちます。

サテ お立会い、このがまからこの油さんちゆうを取るには、山中深く分け入とらって捕え来しかく しめんましたるこのがまをば、四角四面鏡張りの箱の中ほうにがまを放り込む。サアア がんま先生おのれ、己のみおのれにくい姿しほうが四方うつの鏡に映るからたまらない。

ハハアア 俺は 何とみにくい奴やつなんだろうと、己おのれのみおのれにくい姿を見て、びっくり仰天ぎょうてん きょたい あぶらあせ、巨体より油汗をば タラーリ・タラーリと流す。これを下の金網かなあみ・鉄板てっばんに漉き取りまして、柳の小枝さんしちをもって 三七あいだは二十一日の間、トローリトローリと煮たきしめ、赤い辰砂しんしゃにヤシ油、テレメンテーナ、マンテイカ、かかる油をば ぐまっと混ぜ合わせて、こしらえたのが、お立会い、これ陣中膏じんちゆうこうはがまの油だ。

サテ お立会い、このがまの油こうのうの効能はと言うと、疾しつ、がんがさよう、痒ばいどく、梅毒、ひび、あかぎれ、しもやけの妙薬みょうやく、

まだある、前にまいればいんきんたむし陰金田虫、後ろにまいればでち脱肛、
いぼち はしりぢ けいかんじ痔核、痔出血、いっさい鶏冠痔の他、切り傷一切まだある。

大の男が七転八倒、しちてんぱっとう豊の上を ころゴロン・ゴロンと転がって苦
しむのが、お立会い、これこの虫歯の痛み、だが、てまえ手前のこのがま
の油をば、ぐっと丸めてうっ歯の空ろに詰めて、っ静かに口をむすん
でいる時には、熱いよだれが、タラリ・タラリと出ると共に、
いた歯の痛みはピタリと止まる、お立会い。

まだまだあるよ、はもの刃物の切れ味をも止めてご覧に入れる。

サテ お立会い、手前 やここに取りい出したるは、我が家に
かほう まさむね ひま昔から伝わる家宝・正宗が暇にあかしてきた鍛えたと言う天下の
めいとう名刀。 実によく切れる。

エイッ たまち こおり やいば は抜けば玉散る氷の刃。刃こぼれひとつない。

ここに、ちょうど一枚の紙があるから、切ってお目にか掛けよ
う。一枚の紙が二枚、二枚の紙がよんまい四枚、四枚の紙が八枚、
八枚がじゅう十と六枚、十六枚が三十と二枚、三十二枚が六十四
枚、いっそく六十四枚が一束と二十八枚。

ほれ、この通り細かくよく切れた。

ふつと散らせば、比良の慕雪か 嵐山には落下の吹雪とご
ざい お立会い。

サテお立会い、これ程よく切れる天下の名刀でも、一度この
がまの油を付ける時、たちまち切れ味が止まる。

差し裏・差し表に付けます。

サァーどうだ、たたいて切れない、押しても 引いても 切
れやーしない。

サテお立会い、お立会いの中に、「お前のそのがまの油という
やつは、切れる物を、ただ鈍らにするだけだろう」と言うお方
があるかも知れないが、手前、大道商人はしているが、金看板
は天下御免のがまの油売り、そんなインチキは、やり申さぬ。
このように、きれいに拭き取る時には、元の切れ味になる。

それでは、手前の腕を切ってご覧に入れる。エイッ……。
ハイ この通りだ。さわっただけでも、赤い血が、タラリ・
タラリと出る。

だが、血が出ても心配はいらない。この傷口にがまの油をひ
と塗り付ける時、タバコ一服吸わぬ間に、ピタリと止まる血止
めの妙薬とござる。

サーテ お立会い、お立会いの中に、それ程効き目あらた
かなこのがまの油。 いったい一貝いくらだろうと言うお方が
あるかも知れないが、本日は、はるばる（ ）まで
出張でばつての大安どきょう売り、男は度胸あいきょう、女は愛嬌、山で鳴くのは
ホーホケキョきよみず、清水の舞台から（筑波山てっぺんの天辺から）まっ逆さか
さまに飛び降りたと思って、一貝もんが二百文と言うところ、半額
の百文ではどうだ。

サーどうだ、このようにがまの油の効能わが分かったら、
遠慮えんりよは無用だ。分かったら、どしどし買かってきな、買かってきな。

注 釈

- 遠目山越笠のうち・・・・・・・・遠方、山の向こう、笠をかぶっていると、本物以上に、女の方は、皆美人に見えてしまいます。転じて、本物がよく分からないことを言う。
「夜目遠目笠の内」と言うのが正しいのかも。
- 黒 白・・・・・・・・・・^{あいろ}丈色（「あやいろ」の音変化）と書くのが普通で、下に「見えない」「分からない」などと続けて「分別がつかない・判断できない」の意味に使う。
- 四六のがま・・・・・・・・・・後ろ足の余計な一本を、^{ばんがいし}番外指と言う。（専門的には「内足突起」）。筑波山神社では、がま→がま口→商売繁盛、かえる→帰る→無事→交通安全を祈願している。
- ヒキ面相（曇面相）・・・・・・・・^{ひきせんそう}「曇蟬噪」というカエル類の大合唱の騒がしさを表して、この文字をあてたと言う説が有力ですが、諸説あり。カエルの姿・形・面構えのことです。「蛋仙草」「曇鳴噪」「四季千草」などが落語の中で使われている。ヒキガエルには、アズマヒキガエル・ニホンヒキガエルなどが日本に生息している。毒液は、がまの油や六神丸として薬用。
- おんばこ・・・・・・・・・・オオバコ（大葉子・車前草）のこと。通称「かえるっぱ」とも言う。漢方では、薬用に使用。若葉は、食用になる。
- 辰 砂・・・・・・・・・・水銀と硫黄とからなる鉱物。深紅色または褐赤色で、塊状・粒状で産出。水銀製造の原料、また、赤色顔料の主要材料。
- テレメンテーナ・・・・・・・・・・テレピン油のことで、松・杉などの樹脂を水蒸気蒸留して得た揮発性の精油。ワニス・ペイント・ショウノウの原料。
- マンテイカ・・・・・・・・・・猪や豚などの脂肪。江戸時代、膏薬に加えたり、器機のさび止めに用いた。

大道芸 がまの油売り口上講座（第1回目）

日 時 令和6年9月14日（土）
午前10時～
場 所 土浦市立「小町の館」

大道芸「がまの油売り口上」を習得する秘訣！

- ① 口上文を暗記すること。
一字一句づつ覚えるよりも、全体的に口上の内容をストーリーとして把握すること。
さらに、口上に流れをつけ、身振り手ぶりをいれると覚えやすい。
- ② 声を出して練習するように心がける。
口の中で、（黙読するように）つぶやかないで、腹から大きく声を出す練習をする。
近くの川原や公園など広い場所で選んで練習するとよい
- ③ 口上は、◎相手に話しかけるように。◎相手呼び止め、最後まで聞きたくなるように。◎ハングリーの精神で、売ろうとする気持ちを忘れずに。
- ④ 最初の「サーー サーーお立会い」の声は、無理のない高さで発声する。
高すぎたり、逆に低すぎたりすると、最後まで声が続かなくなるので要注意。
- ⑤ ここは、「聞かせどころ・売りどころ」だと思ったら、ゆっくりと語りかけるように心掛け、相手が考える暇がないうちに買いたい気持ちにさせる。
- ⑥ フーテンの寅さんのように、歯切れよく・テンポよく・間を上手に取ると聞きやすく、お客さんも引き込まれる。
- ⑦ 一通り口上を覚えたら、恥ずかしがらずに人前で実演してみる。
失敗したり・反省したりすることで上達する。 恥をかくことを恐れずに！
- ⑧ 自分なりの口上を創作し、他の人とは違う個性的なものに挑戦してみるのも楽しいかも……。 人のマネごとでは無い本家本物を作り上げる。
- ⑨ 「がまの油売り」は、大道芸である！
宴会やステージ等で常時演じていると、聞かせるだけの一方通行の話芸になりがちである。大道芸は、売ってなんぼの世界。お客さまをいかに足止めさせ、買っていただくかが大切。
- ⑩ 口上は、落語ではありません。物を売るためのもの。大道芸の天才と言われた坂野比呂志氏曰く、大道芸として客が聞いていられる時間は『5～6分間勝負』とのこと。

※客の反応を見ながら、解りやすく、面白く、飽きさせずに演じること・・・空気を読む

大道芸 がまの油売り口上講座 (第2回目)

日 時 令和6年9月28日(土)

午前10時～

場 所 土浦市立「小町の館」

講義内容 **陣中膏がまの油のルーツは** (徳川家康と筑波山の関係は！)

・常陸風土記「^{やおやのかみのみこと}祖神尊が諸国を巡り歩いた際、福慈の岳は常に雪ふりて……」

西に富士 東に筑波。 朝は藍・昼は緑・夕は紫

・名前の由来は

・高さが変わる？

・門前市(明治3年廃仏) 幕末は成田・日光と並ぶ観光地。

・表参道は

・関が原の戦い(慶長5年、1600年) 秀吉の死後、家康の東軍と石田三成の西軍

・大坂冬の陣 (慶長19年11月)

大坂夏の陣 (慶長20年 4月)

知足院中禅寺……延暦年間(782～806年)に開かれた筑波山寺が起源。

明治になるまで山を支配。

光譽上人(徳川軍の従軍僧) 初代・宥俊(大和国 長谷寺)

北東の鬼門の方向、鎮護の霊山として信仰。 桃太郎伝説と日本書紀。

家康から寺納500石、秀忠から寺領500石。

・西の伊吹山(江戸や東海道は筑波山を引用)

・昭和58年春、「土浦ものがたり」……土浦市内の旧築地町(現・城北町)に足軽長屋

(七兵衛長屋)あり、真鍋の赤池のがまを天日乾燥させ、菜種油とロウを混ぜる。

「筑波山がまの油発祥の地」の碑が、^{はくすいなり}白水稻荷の境内に建つ。

大道芸 がまの油売り口上講座（第3回目）

日 時 令和6年10月12日（土）
午前10時～
場 所 土浦市立「小町の館」

講義内容

がまの油の仕掛け人は誰か

（三人の兵助から真実に迫る！）

- ・永井 兵助（幼名・平助） 父・佐助、 母・おたね
常陸国筑波郡永井村（現・土浦市永井）。 普門院成就寺。
宝暦3年（1753年）16歳の時江戸へ。 深川・木場問屋。 あかぎれ・しもやけ。
講中が筑波山参り。 浅草の縁日で話術を研究。 講釈師に頼む。
江戸町奉行 → 名字帯刀（脇差し）。 22歳で独立。 長男の長助。

- ・長井 兵助（居合い抜きの達人） 文政年間（1818～1830年）御成御用を仰せつ
かり、將軍や若君に居合いを見せていた。 野武士。 松井源水。
明治17年（1884年）2月14日「開花新聞」に、浅草蔵前にて営業すること
150年に及んでおりますが・・・・。
明治まで5代続いた歯磨き粉売り（兼・歯医者）の商売とあわせ寄席にも出ていた。
明治中頃、11代で閉店。

- ・ゑびす屋兵助（歯磨き粉等を販売） 平賀源内（1728～1779年）43歳の時、
「^{そうせきこうひきふだ}漱石香報条」を作る。 落語「両国八景」円右。 三吉（がまの油屋を両国で。
円右の弟子・一朝の義兄）※一朝は妻13人、後の円楽。香具師の口上に、長井兵助の
居合い抜きや歯磨き売りをミックスさせて落語を完成させる。今は大道芸 → 舞台芸
に。

大道芸 がまの油売り口上講座 (第4回目)

日時 令和6年10月26日(土)
午前10時～
場所 土浦市立「小町の館」

講義内容 「がまの油の原料と製法」 (明治・大正・昭和のがまの油とは!)

・古くは、 センソ + ミツロウ + ゴマ油 (よく混ぜる)

↑
耳傍腺・乳白色 (自衛手段として)
ヒキガエル (ニホン・アズマ・ナガレなど・・・)

平均時速50m。短足。番外指 (内足突起)。

※センソとは、漢方薬 (解毒や腫れ止め、痛み止め)、最近では強心剤として市販。

・江戸時代末期から香具師は

ゴマ油1升到 ムカデ10匹 (半年間) + がま10匹 (1ヶ月間)

//

煮詰める + 和ロウ ⇒ 貝殻に詰める。

・昭和のがまの油

製造元 山田屋薬局 (つくば市北条・平成11年1月倒産)

昭和30年「陣中膏一名がまの油」でデビュー。

センソより、塩酸エピレナミンはがま毒の中でも究極の成分。

これをヒントに、

日本薬局方シコン (紫根)、ホウ酸、酸化亜鉛
ミツロウ、オリーブ油

を一緒にして、昭和58年「陣中膏」として再デビュー。

(酸化亜鉛、シコンエキス、ミツロウ、ダイズ油)

江戸時代の物と比べ、勝るとも劣らない良薬。

30年当初2000個 → 10万個超のヒット商品。

・昭和60年「つくば科学万博」開催

10人に一人は買うのでは・・・・・・・・。

がま戦争開始! ○医薬品 「陣中膏」 (山田屋薬局)

(業者間対立) ○医薬部外品 「軍中膏」 (今川薬局)

○化粧品 「せんしょ」 (がまの油本家)

○雑品 「貴学油」 (種村製薬) → 陣中油として

印籠にいれて売る。

・がまの油の値段

兵助・柳好 100文 (幕末・並酒1升)

米朝 16文 (盛りそば・かけそば1杯)

金馬 6文 (豆腐1丁)

※昭和30年400円、60年頃500円、平成10年代600円、現在700円。

「筑波山に関する伝説いろいろ」

- ・筑波山神社（イザナギノミコト・イザナミノミコト）夫婦二神を主神とする全国屈指の由緒ある名社。夫婦和合、縁結びの神として広く信仰を集めています。
- ・大御堂 坂東33観音霊場の第25番札所で、交通安全、安産、家内安全、開運招福、を祈る人々が毎年多数訪れます。8世紀末、徳一上人の開祖とされ、のちに弘法大師空海が密教道場を開いた。
- ・御幸ヶ原 セキレイ石 → 水無川 → 女男ノ川 → 男女ノ川
- ・立身石 親鸞聖人ゆかりの地。
間宮林蔵が13歳の時、この大石に祈願して世界的探検の大偉業を成就したと伝えられる巨岩。
- ・がま石 がまの形をした大石。戦前の資料では、「龍石」と言っていた。
- ・弁慶七戻り 見るからに落ちてきそうな巨岩の下をくぐる道で、さすがの弁慶も7回逆戻りしたと伝えられています。
- ・その他の奇岩・珍岩いろいろ
 - ・母の胎内くぐり
 - ・北斗岩
 - ・大仏岩
 - ・出舟入船
 - ・屏風岩
 - ・高天原
 - ・裏面大黒
- ・白滝
- ・神郡の町並み（つくば道）三代将軍家光が、大御堂の再建のために開いた道と伝えられています。土蔵造りの家並みが現在も残っており、当時を偲ばせます。
- ・階段道（つくば道）寛永年（1632年）三代将軍家光が、知足院中禅寺の伽藍再建のために整備した資材運搬用道路だったと伝えられています。
- ・嬬歌（カガヒ）カガヒは、歌垣（うたがき）ともいわれます。古来、筑波山に多くの男女が集まり、互いに歌を懸け合い、舞踏して楽しんだと伝えられる。